

八代市長
中村博生 様

令和7年3月12日
八代市厚生会館のホール再開を求める会
共同代表 丸山久美子
佐藤士郎
磯田節子
甲斐田栄

八代市厚生会館跡地利活用基本構想に対する抗議文

3月5日の八代市議会において、「旧八代市厚生会館跡地利活用基本構想」の概要が明らかにされました。具体的には、芝生広場を拡張して一部を野外ステージにし、キッチンカースペースを作り、多機能トイレや観光案内版などを設置する等々、といった内容でした。市も認める高い価値を持つ厚生会館を壊して、その代わりに現れるものがどのようなものなのか分かりました。

そもそも私たちは、市内の他のホールにはないどころか、国内の多くのホールでさえ持っていない全国屈指の素晴らしい音響特性を持つホールを活かすこと、また、2～3年ごとに異動する行政職員ではなく、ホール運営・興業の専門職員を配置して的確に運営すること、さらに日本のモダニズム建築における重要性や周辺の近世～現代の名建築と合わせたゾーニングの中に厚生会館を位置付けることを提言してきました。そのうえで「十分に黒字経営が可能な施設である」と指摘してきました。その前提として、厚生会館は市の劣化度調査で「構造体としては直ちに大規模な改修が必要な状況ではない」とされ、そのうえで建築家らも「コンクリートの劣化はほとんど進んでおらず、まだまだ十分に使うことができる」と指摘していることを踏まえています。

しかし、市は私たちの提言に対して、その一部をつまみ食いはするものの、真摯に向き合って検討することはありませんでした。そして今回、跡地利活用基本構想の概要が発表されました。今月中に策定を終了した上で「広報やつしろ」やホームページで公表し、市民の意見を求めるというスケジュールも示されています。

500万円もの委託費をかけて策定される基本構想ですが、すでに「桜十字ホールやつしろ(やつしろハーモニーホール)」にあるような芝生広場と野外ステージ、多機能トイレなどのセットをここにもう一つ作り、ただしマンホールトイレなどのわずかな防災設備を付け加える、という内容です。野外ステージにしてもキッチンカースペースにしても、年間何回利用されるということなののでしょうか。芝生広場は、実質的には駐車場扱いするのでしょうか。

事業費に関しても、市は厚生会館の解体に10億円前後もの多額な費用がかかることを故意に明らかにせず、また今回の基本構想の事業化で策定段階から合計でどの程度の費用がかかるのかも

分かりません。その一方で、厚生会館の改修費に約20億円かかることだけを作為的に強調し、厚生会館の閉館、そして次の段階である「解体・跡地利用」に突き進もうとしています。今回、基本構想について市民に意見を求めるというからには、市は最低でも、この基本構想と私たちの提言、さらに解体費用を含めた跡地利用の総費用の概算と私たちや建築家らが指摘した改修費用を比べたものを、市民に提示すべきです。

「八代市協働のまちづくり推進条例」は、その前文で「市民と市が対等に話し合い、互いが自主的・自律的に考え、共に行動するという協働のまちづくりが必要」という理念を掲げ、それは「公共施設等の設置に関する計画の策定、変更又は廃止」についても対象となっています。にもかかわらず、厚生会館に関しては、この理念がまったく欠けていると言わざるを得ません。

その意味でも私たちは、今回の跡地利活用基本構想策定に対して強く抗議するとともに、その全面的な白紙化を求めます。

以上